舌神経（三叉神経Ⅴ），舌下神経（Ⅻ）

舌神経（N. lingualis）

三叉神経の第３枝で、蝶形骨大翼の卵円孔から側頭下窩へ出る。下歯槽神経の前方を併行して走り、口腔底と舌粘膜に分布する。この神経に顔面神経から出た**鼓索神経**が合流し、その中にある味覚、分泌線維が加わる。舌の知覚、舌前方⅔の味覚を司どる。

顎下神経節：舌神経の下部にあり上述の分泌神経線維と、交感神経枝が加わり、顎下腺、舌下腺の分泌を司どる。

舌下神経（脳神経Ⅻ N. hypoglossus）

解 剖

すべての舌筋へ運動線維を送る。延髄から出て、舌下神経管（後頭骨）を貫いて、頭蓋の外に出、内・外頸動脈の外側を斜めに前下方へ下り、これらの諸筋に到る。

1. 舌筋枝：すべての舌筋群と頤舌骨筋に分布する。

2. 吻合枝：総頸動脈の外側を通り、上位頸神経前枝の枝と吻合し、舌下**神経係蹄**（**頸神経ワナ**）を作り、ここから舌骨下筋群の各筋に枝を送る。

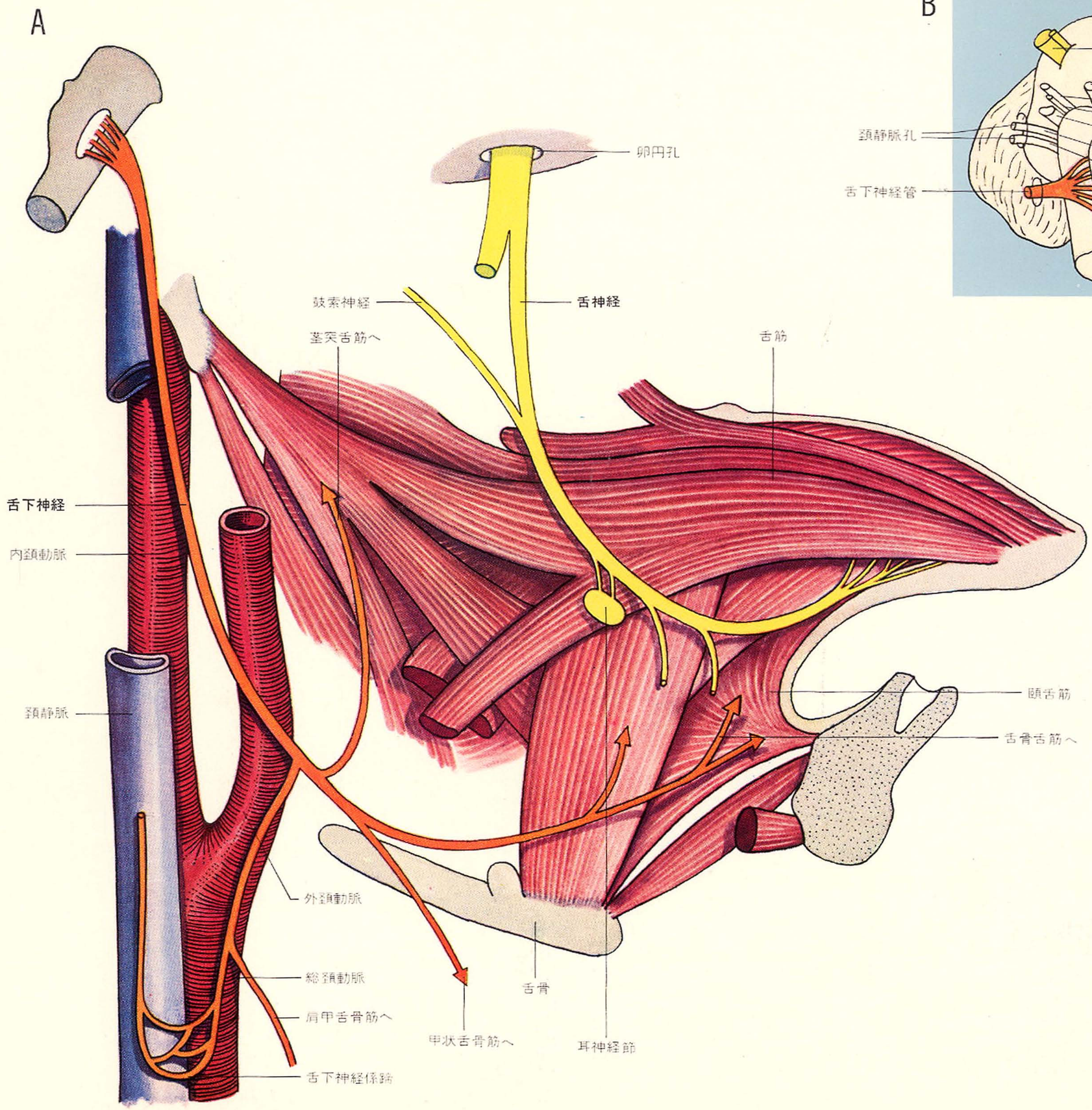
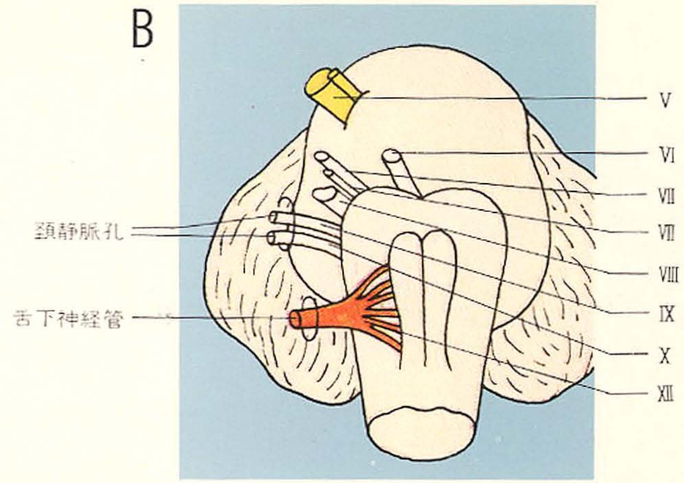
機 能

舌の提出、運動を司どる。頤舌骨筋、舌骨下筋群は頸神経ワナにより主に頸神経から支配される。

臨 床

延髄の舌下神経核の病変、または末梢性傷害により舌の提出障害（傷害側へ偏く）、舌筋萎縮、束性拘縮などを来たす。

核上性障害では、舌萎縮は来たさず、舌提出は対側（麻痺側）へ偏位する。

心因性に舌運動障害を来たし、吃りなどを来たすことがある。

舌振戦（Tongue tremor）：舌に力を入れると正常でもみられることが多く、束性拘縮と誤らないようにする。